

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年3月22日 (2012.3.22)

【公表番号】特表2011-529492(P2011-529492A)

【公表日】平成23年12月8日 (2011.12.8)

【年通号数】公開・登録公報2011-049

【出願番号】特願2011-521085(P2011-521085)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/07 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 K 47/42 (2006.01)

A 6 1 K 9/127 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/225 (2006.01)

A 6 1 K 31/337 (2006.01)

A 6 1 K 31/7088 (2006.01)

A 6 1 K 31/7105 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/16 (2006.01)

A 6 1 P 1/18 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/07

A 6 1 K 47/48

A 6 1 K 47/42

A 6 1 K 9/127

A 6 1 K 47/34

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/225

A 6 1 K 31/337

A 6 1 K 31/7088

A 6 1 K 31/7105

A 6 1 P 43/00 1 0 1

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 1/16

A 6 1 P 1/18

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 43/00 1 2 1

【手続補正書】

【提出日】平成24年2月2日 (2012.2.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 3 9】

状態が、肝線維症、肝硬変症、膵炎、膵線維症、嚢胞性線維症、声帯瘢痕化、声帯粘膜線維症、喉頭線維症、肺線維症、特発性肺線維症、骨髄線維症、後腹膜線維化症、腎性全身性線維症、肺がん、膵がん、乳がん、肝がん、胃がんおよび大腸がんからなる群から選択される、請求項 3 7 に記載の医薬組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 9】

他の態様において、治療剤は核酸を含んでもよい。これらの態様において、治療剤は s i R N A、DNA、RNA およびアンチセンス核酸から選択され得る。ある態様において、治療剤は s i R N A であってもよい。一部の態様において、s i R N A は 5 ~ 5 0 塩基対、好ましくは 1 0 ~ 3 5 塩基対、より好ましくは 1 9 ~ 2 7 塩基対を有する RNA を含む。s i R N A はまた、RNA / DNA 混合分子またはタンパク質 / RNA 混合分子を含んでもよい。ある態様において、治療剤はコラーゲンの分泌を抑制してもよい。治療剤は、標的器官へ送達されてから、組織メタロプロテアーゼインヒビター (T I M P) または分子シャペロンの活性を実質的に抑制してもよい。一部の態様において、治療剤の標的組織への送達によって抑制される分子シャペロンは、コラーゲン特異的なもの、例えば熱ショックタンパク質 4 7 (H S P 4 7) などであってもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 1】

本明細書に開示する治療組成物は、種々の手法で調製することができる。本明細書に開示するターゲティング剤および / または治療剤の 1 または 2 以上は、静電結合を介して担体と作動可能に結合していてもよい。ある態様において、ターゲティング剤は、静電結合を介して担体と作動可能に結合していてもよい。同様に、治療剤は、静電結合を介して担体と作動可能に結合していてもよい。治療剤が担体と静電結合を介して結合している一部の態様において、治療剤は核酸を含んでもよい。例えば、治療剤である s i R N A は担体と静電的に結合していてもよい。